

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 長野県 】

学校名【 阿南町立大下条小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童90人 (人権教育講演会は全校児童に加え、保護者約50人、天龍中学校生徒・教職員約20人も参加)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (道徳・体育) ② 行事名 (PTA 人権教育講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックの理念や携わる人々の思いに触れることを通して、思いやりや支え合いの気持ちを高め、どんな人たちとも共に生きていくことの素晴らしさについて考える
5 取組内容	(1) 人権教育講演会 日本障害者スキー連盟ノルディック委員長の渡辺孝次先生（伊那養護学校教諭）に講演をしていただいた。パラリンピアンの新田佳浩選手との関わりを通して、自分のよさ、友だちのよさを見つけることの大切さなどを教えていただいた。 

	<p>(2) 「ボッチャ」を体験しよう パラリンピック種目の「ボッチャ」を体験し、スポーツに親しむ態度と公平さを養った。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○日本障害者スキー連盟ノルディック委員長として、新田選手を支えてきた渡辺孝次先生から、共生社会をラグビーの日本代表チームの合言葉「ワンチーム」に例え、それぞれが自分の強みを生かしてひとつにつながるのだと教えていただいた。片腕でクロスカントリーにチャレンジし、パラリンピックで金メダルをとった新田選手の話から、自分のよさを見つけ、あきらめずに挑戦し続けることの大切さを学んだ。</p> <p>○「ボッチャ」を体験し、人や状況に合わせてルールを工夫すれば誰でもスポーツを楽しむことができることや、ルールを尊重し、公平な態度でスポーツに親しむことのよさを体感できた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○人権教育講演会では、本校児童、保護者、教職員に加え、近隣の中学校へも呼びかけ、一緒に講演を聞いてもらった。児童だけでなく、いろんな人が一緒に話を聞く機会も「共生」のひとつとして捉えることができた。</p> <p>○ボッチャは、広めの空き教室にテープで簡易コートを作っておき、いつでもすぐにボッチャができる環境を整えた。授業のみならず朝の活動や休み時間等にもボッチャを楽しむ姿が見られた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○PTA講演会については、大変よい内容だったので、早めに近隣校や地域の皆さん等へアナウンスし、より多くの方に来ていただけるようにすればよかった。</p> <p>○ボッチャを通じて、近隣校や養護学校と交流するなど、外への広がりがあるとよかった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○ボッチャを通じた体験や交流の継続。</p>